

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立大島高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
 (2) 事務局の構成 主幹教諭 1名
 (3) 内部委員の構成
 校長、副校長、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任（主任教諭）、進路指導主任（主幹教諭）家政科主任（主任教諭）、農林科主任（教諭） 計8名
 (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
 学識経験者(大学准教授)、PTA会長、大島町教育委員会教育長、大島町立小中学校長会長、同窓会長、大島観光協会会長、民間企業社長、警察署防犯係 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 第1回 令和4年6月9日（木）開催
 内部委員8名、協議委員8名 授業見学後、協議
 協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
 本校の現状と課題等説明、意見交換
 第2回 令和4年10月6日（木）書面開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う措置）
 内部委員8名、協議委員8名
 前期教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討
 第3回 令和5年2月8日（水）開催
 内部委員8名、協議委員8名
 学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 第1回 令和4年6月9日（木）開催
 内部委員2名、評価委員2名
 学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
 今年度の学校評価の実施に向けた検討
 第2回 令和4年10月6日（木）書面開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う措置）
 内部委員2名、評価委員2名
 今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 第3回 令和5年2月8日（水）開催
 内部委員2名、評価委員2名開催
 アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
- | | | | |
|------------|---------|--------|-----------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：110人 | 回収：93人 | 回収率：84.5% |
| ・12月 保護者全員 | 対象：110人 | 回収：26人 | 回収率：23.6% |
| ・12月 地域・住民 | 対象：46人 | 回収：46人 | 回収率：100% |
| ・12月 教職員 | 対象：32人 | 回収：32人 | 回収率：100% |
- (3) 主な評価項目
 ・生徒、保護者、教員、地域住民に共通して「学習面」、「生活指導面」、「進路指導面」、「特別活動面」、「その他」に分類した約16項目を設定した上、自由意見欄を設けた。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 ・アンケート結果より、日頃の授業や評価の付け方に関して肯定的な評価をいただいていることが分かる。学校は学力向上に取り組んでいるかという点において、授業内外での取り組みをより一層充実させることが必要である。
 ・生徒の生活態度の良さは、保護者や地域からも定評がある。年度初めに生活指導部から生徒や保護者に対して生活指導に関する方針を通知し、情報共有を引き続き丁寧に行う。
 ・体罰や暴言の根絶、いじめ防止対策を実施していることについて、地域や協議員への周知には今後改

善の余地が見られる。

- ・令和四年度に実施したホームページのリニューアルを始め、ツイッターによる情報発信などを継続し、「開かれた学校」を目指す。
- ・入学して良かったかの結果が生徒97%保護者80%と高評価であった。教育活動が成果に結びついていることが分かる。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・教科担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うとともに、学力のあまり高くない生徒への指導はもちろん、大学進学を考えている生徒等に対する学力伸長にも努めることが大切である。
- ・生活指導は、理解されているが、今後も挨拶等の基本的マナーができる生徒となる指導を行う必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。
- ・保護者への連絡や情報発信が必要であることが分かった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・保護者を始め近隣の住民への、PRを進める必要があることが分かった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。

(2) 学習指導

- ・学力の底上げと同時に、伸長する工夫が必要であり、研究授業等で啓発を行う。

(3) 特別活動

- ・コロナ禍ですべての行事が実施できなかったため、行事運営の継承が必要である。

(4) 生活指導

- ・家庭とともに基本的な生活習慣を身に付けさせる工夫を行う。

(5) 進路指導

- ・進路実現のため、入学当初から目的意識をもたせるようなキャリア教育を行う。

(6) 健康・安全

- ・担任やスクールカウンセラーとの面談を通して、少しでも自己有用感をもたせるようにする。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう思う | どちらとも言えない | あまりそう思わない | そう思わない | 分からない | 無回答 |
|------|--------|-----------|-----------|--------|-------|-----|
| 4 | 4 | | | | | |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるための工夫が必要である。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。